



## 開館記念日 記念講演会

【日時】平成二十六年十一月一日(土)

【場所】文書館 研修室

【演題】史料から読み解く地域の歴史

～西上州の関所と脇街道～

【講師】岡田昭二(当館主幹専門員)

江戸時代の西上州(藤岡・多野・富岡・甘楽周辺)は山間畑作地域であり、特産物として蚕糸・生絹生産や麻・紙・煙草栽培などが盛んでした。一方、本地域には絹の取引市場として栄えた藤岡町から上信国境の峠を越えて信濃国へ通じる二つの脇街道が知られています。

元禄十五年の「上野国絵図」によれば、一つは藤岡から神流川沿いに西進し、十石峠を経て信州佐久地方に至る十石街道です。他の一つは藤岡から吉井・七日市等の陣屋を経て下仁田に至る下仁田道で、この道はさらに二筋に分かれ、南路は南牧領の砥沢村を経て余地峠越えの道、北路は西牧領の本宿村から内山峠や志賀峠越えなどの道がありました。

また各道の国境付近には往来する旅人や荷物を取り締まるため、幕府の代官が管理した三つの関所があり、十石街道の檜原村に白井関所(寛永八年)、下仁田道南路の砥沢村に南牧関所(文禄二年)、北路の本宿村に西牧関所(文禄二年)が

それぞれ配置されていました。

さて下仁田道の北路は通称「姫街道」と呼ばれていますが、これを裏付ける史料として明治初年の「甘楽郡上小坂村誌」(『上野国郡村誌』第八巻所収)に次のような記述があります。

里道一等、巾七尺、東方菅原村界ヨリ村ノ中央ヲ過テ西方西野牧村ニ入ル、往時之ヲ女人街道ト云フ(下略)

さらに昭和三年刊『北甘楽郡史』の西牧関所の記述には「西牧村大字本宿字関所裏にありき。此道は上小坂村より漆萱村を経て根古屋に出ずるもの、所謂女街道なり。」とあることから、姫街道は下仁田道の本道そのものを指すのではなく、いわゆる西牧関所北方から妙義神社方面へ向かう脇道(関所の抜け道)を示していたのではないかと思われま



『諸国道中商人鑑』より  
(みやま文庫)

描いた資料として文政十年刊の『諸国道中商人鑑』(みやま文庫所収)と天保九年の「天保巡見日記」(『群馬県史』資料編13所収)があります。

『諸国道中商人鑑』は江戸の板橋宿から武州川越・寄居等から藤岡・富岡・下仁田・初鳥屋に至る、いわゆる下仁田道沿いの主な商家・休泊所・名物等を宿場毎に、時に挿絵付きで紹介した旅の案内書で、江戸時代の交通史や社会経済史の資料として広く活用されています。

後者の「天保巡見日記」は、十二代将軍家慶の代に、天保飢饉後の関東五カ国の幕府領村々を視察するため派遣された巡見使一行の日記です。この中で藤岡町については至極繁盛する在町で、絹細商売の者が多く、江戸三井越後屋等の出店があり、一之宮あたりは日本一の麻苧の名産地と記し、さらに本宿村の入口には碓氷裏関所があるなど、沿道の景観や宿村の様子、風俗、人情などを具体的に記し、大変興味深い資料といえます。

最後に、西上州の三関所はいずれも寛永八年に幕府役人(小幡・塚原の二名)へは抜け道や脇道の封鎖が命じられ、また江戸時代を通じて往来する旅人や諸荷物の取り締まりを任されていました。

なお、各関所には江戸時代中期以降の「通行改日記」等が伝存しています。西牧関所では元禄・宝永期の十八年間に参詣・湯治人や商人など約五六五〇人、白井関所では享保十六年の一年間に商人・職人・馬喰など三二四人と馬一五九疋の

往来が確認できます。さらに南牧関所では天保十四年、将軍家慶による日光社参時に厳重な取り締まりが実施され、四月十二日から二十二日までの十一日間に一三〇人の庶民の往来があったことを当時の記録からうかがうことができます(『群馬県史』資料編9所収)。

## 26年度ロビー展示Ⅱ

### 「近代群馬の養蚕・製糸」

現在当館では、平成二十七年五月十日(日)まで、標記のロビー展示を行っております。

ロビー展示Ⅰに続き、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を記念し、当館収蔵史料を中心に、明治・昭和初期にかけての群馬の蚕糸・製糸業に関する史料を展示しています。富岡製糸場とともに、近代群馬の産業を支えた蚕糸改良の教育機関に関する史料や、明治・大正・昭和期における県の養蚕製糸の物産価格の割合など、収蔵史料をもとに解説しています。

展示内容は、色鮮やかに作られ、繭や生糸が県の重要な産業であったことがわかる物産統計を展示・解説した「①統計で見る群馬の養蚕・製糸」。養蚕技術を全国に普及させた高山社。その高山社が、蚕種の学術研究のため県に提出した「蚕



種製造の承認願」を含む「②養蚕改良と蚕種製造」。前橋の明治期製糸女工の勤務状況や、当時の製糸場の様子を記した「工場日誌」を含む「③座繰製糸から器械製糸へ」。そして、「④『群馬の蚕糸業』略年表」と、「⑤群馬の養蚕・製糸参考史料」で構成しています。文書館ならではの貴重な史料を展示しておりますので、ぜひ一度、ご来館下さい。

### 長期古文書講座・出前なんでも講座・ぐんま史料講座

#### ●長期古文書講座

9月6日(土)から11月29日(土)まで毎週土曜日、全12回の講座を行いました。全12回の講座のうち4回は外部講師を招いての講義でした。近代を担当された丑木幸男講師、中世を担当された久保田順一講師とも、熱心に工夫を凝らした講義をしていただきました。修了者数は45人。入門・長期を合わせた修了者数は延べ三千九百人を超え、27年度は四千人の大会を迎える記念すべき年になりそうです。

#### ●出前なんでも講座

26年度は6件の申込を受けて講座を行いました。(文書館HP参照) 皆様からご好評いただいたおかげで、県全体で人気講座ベスト5に入りました。来年度もよろしくお願ひします。

#### ●ぐんま史料講座

本講座は文書館が収蔵する史料の中から、興味深い歴史史料をテーマ別に紹介する講座です。本年度は1月24日(土)、2月7日(土)の2回行われました。定員50名に対し多数のご応募をいただき、急遽定員を増やすほどで大盛況のうちに終えることが出来ました。

☆1・24 高橋敏講師(国立歴史民俗博物館名誉教授)「地域史料から見た小栗上野介忠順と幕末上州―『小栗日記』を中心に―」

江戸幕府の役職を辞して権田村(現高崎市倉渕町)に居住した小栗が残した『小栗日記』をもとに小栗の人物像や激動の幕末社会に焦点をあて、正史では語られない「敗者」の歴史を講師独自の視点を変えて熱心に話されました。



高橋敏講師



手島仁講師

☆2・7 手島仁講師(前橋市歴史文化遺産活用室長)『耕堂楫取男爵伝記』

#### と花燃ゆ

群馬県(第二次)初代県令楫取素彦について『耕堂楫取男爵伝記』と群馬県行政文書をもとに現在放送中のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の制作の舞台裏から、実証主義に徹した講師が捉える楫取素彦像をユーモアたっぷりに話されました。27年度は時期を夏期と秋期に分けて行う予定です。どうぞお楽しみに!

### 天川小学校 授業協力の報告

昨年十月三十日、天川小学校の三年生七五名が、総合的な学習の時間の活動の一環として来館しました。学習のねらいは「地域の歴史等を調べたりまとめたりしながら、地域のよさを見つけ、伝統を守り将来に伝えていこうとする気持ちを育てる(地域のよさを再発見)」ことでした。

当館では、天川地区の昔の絵図(地図)を活用しました。当館所蔵の約百五十年前と約三百年前の史料です。絵図の活用は「昔から変わらずにあるもの」と「昔とは変わっているもの」を視覚的に比較できるので、大変有効であると考えました。また説明するのに使用する絵図は、揭示しやすい複製品のパネルを利用しましたが、合わせて現物の展示も行いました。絵図の質感や色、大きさに着目して

もらい、その歴史を肌で感じてもらえるように留意しました。

児童からも「この古墳知ってる。」や「このお寺に行ったことあるよ。」など、絵図の中の位置を確認しながら、たくさん意見が出されました。また、普段当たり前に見ている広瀬川や端氣川、宮川などの河川、大きな道などが何百年も昔から変わらずにあることに、とても驚いていた様子も見られました。

全体的な学習活動の構成や、使用する資料の選定は、効果的にできたのではないかと感じております。それは、先生方との事前の打ち合わせが適切に行えたことが大きいのではないかと考えております。やはり実際に指導される先生方との確認や、使用する史料についての意見交換が非常に重要であると感じました。

今後も様々な連携・協力に対応していきたいと考えますが、関係機関や関係者との打合せや意思の疎通を図り、効果的な取り組みとなるように努めていきたいと思ひます。

### ホームページでチャレンジ! 「演習ぐんまの古文書入門」 ただいま開催中

文書館ホームページにまたまた新しいインターネット講座が登場!これから古文書の解読に挑戦しようとする人向けに、

主に江戸時代・明治時代の古文書の中から、基本的な内容のものを選び、毎月2回掲載しています。

「古文書学習に近道なし、習うより慣れる！」を合い言葉にあなたのペースで始めてみませんか。

## 古文書

新たに収集した

(平成二六年十月以降)

### ◎安中市原市・櫻井保広家文書

近世期に原市村組頭、明治期に同村戸長、原市町長等を務めた櫻井家史料及び近世原市村名主家文書等を含む文書群。年貢・諸役、助郷・領主巡見、戸長役場文書、原市学校関係文書、枝下神社・満福寺文書などがある。約三千点。(寄託)

## 古文書

新たに閲覧できる

(平成二七年一月及び同年三月公開分)

※文書群名の住所表記は文書受入当時のもの

### ◎高崎市岩鼻町・近藤清康家文書

主に岩鼻監獄典獄の近藤清関係史料群。①清宛楫取素彦書簡、②辞令・褒賞等による履歴書等、③官有地の岩鼻監獄敷地私下史料、④家作・土地小作関係史料など。二四七点(P1301)

### ◎沼田市岡谷町・大嶋千治家文書

近世岡谷村名主文書が中心。享保期沼

田藩主土岐氏宛老中奉書、同藩主本多氏施政が記された沼田領惣百姓の幕府への訴状写、三国・戸倉戦争関係史料など。第一次公開 一七八五点(P9411)

### ◎勢多郡新里村新川・錦木五子家文書

①近世勢多郡新川村名主文書、②勢多郡新川村等近代文書、③同家私的文書からなる。①は年貢割付状等の貢租関係、村行政関係、宗門人別改帳等の村況・戸口関係文書など。③は典籍類・書画、冠婚葬祭など。三〇六六(P9707)

### ◎勢多郡新里村野・千本木義夫家文書

①近世野村名主文書、②野村等近代文書、③同家私的文書からなる。①は大胡東領野村御縄打水帳、同御検地野帳、野村絵図など。③の日嘉栄(明治一七年)は、赤城南麓地域の富農層の生活等が記された好史料。二七三三(P9601)

### ◎勢多郡東村・狩野美恵子家文書

新井ふで氏の卒業証書二点。No.1の県立桐生高等女学校(現桐女)の前身は、明治四一年設立の山田郡立桐生高等女学校で県内二番目の女学校。No.2の山田郡私立桐生裁縫女学校は、現桐生第一高。伝存地は前橋市。二点(P9610)

### ◎渋川市白井・高橋俊雄家文書

長尾尋常高等小学校教員の高橋音五郎関係文書が多数。「教授案」(大正二年)・「教案簿」(昭和二年)は、当時の授業

の実態を知る上で貴重。明治・大正期の教科書類、雑誌『群馬教育』など。一二〇点(P01206)

### ◎前橋市朝日町・高野家旧蔵文書

高野家の経営関係文書は、借用証書、前橋製糸精選社の共有書(明治一二年)など。教育関係文書は、桃井尋常小卒業証書・修業証書や前橋中褒状・賞状など。明治・大正期の小・中学校教育を知る上で貴重。四一点(P01005)

### ◎藤岡市高山・高山家文書

①高山社関係史料、②明治十年代以降の養蚕関係史料からなる。①は養蚕日誌(明治一五年)等。②は共進会出品書綴(明治一五年)や養蚕関係の版本類。一一九七点(PF9102)

### ◎群馬県・大芝猛家文書

大正二年十月、山本権兵衛内閣内大臣の原敬が、栃木県塩原温泉の米屋から大芝群馬県知事に宛てた書簡。内容は群馬県下学校整理問題や政友会入党の件についてなど。文中に複数の群馬県関係者の名前がある。一点(P01004)

### ◎吾妻郡東吾妻町・高橋あつ子家文書

①近世須賀尾村名主文書、②須賀尾村等近代文書、③同家私的文書からなる。①は信州諸藩廻米や信州酒伊香保温泉請売り、訴訟関係史料など。②は沓掛宿への新道開鑿工事史料など。③は地主・村

会議員史料など。七六四点(P1105)

### ◎北群馬郡吉岡町・中島英子家文書

主に近世大久保村名主文書。名主業務書留の万日記、歎願書等書留の御願書控帳など。宗門人別帳・年貢割付状は寛文・天保期のもの。華道・和歌・俳諧関係史料も多い。六三七七(P0409)

## 今後の行事予定

### ★展示★

ロビー展示Ⅱ「近代群馬の養蚕・製糸」  
5・10(日)まで  
常設展 5・16(土)～7・5(日)  
27年度ロビー展示Ⅰ

「記録が語る昭和の戦争と県民のくらし(仮)」 7・11(土)～10・4(日)

### ★講座★

古文書入門講座(土曜日…全5回)

6・6～7・4 募集開始4・20

第1回ぐんま史料講座 7・25(土)

講師 岩根承成(元群馬大学講師)

長期古文書講座(土曜日…全12回)

9・5～11・28

事前申込が必要なものもあります

詳細は文書館HPをご覧ください

発行／群馬県立文書館

http://www.archives.pref.gunma.jp

題字／岡庭征人書